12/14 育てた豆を上手に調理
洞爺湖温泉小学校で大福豆調理実習

洞爺湖温泉小学校（柿崎秀顕校長）の3・4年生が大福豆の調理実習を行いました。この大福豆は、昨年6月、自分たちで校内の畑に種を蒔き栽培したものです。

実習は、洞爺湖温泉の飲食店「岡田屋」の岡田晋平代表取締役が調理方法を指導しました。

子どもたちは、大福豆の調理に苦戦しながらも、出来上がった煮豆を食べて「初めて食べたけど、甘くておいしかった」などと笑顔を見せていました。

調理した大福豆を試食する子どもたち

12/7 防ごう振込め詐欺の被害
伊達地区保護士会洞爺湖分区が防犯教室

振込め詐欺などの被害を防ぐため、伊達地区保護士会洞爺湖分区が防犯教室を開きました。伊達警察署の署員が特殊詐欺の被害に遭わないため注意点を挙げ、電話で現金を要求された場合は「全て詐欺だと思ってください」と強調し、キャッシュカードと暗証番号の取り扱いに気をつけるよう呼び掛けました。

さらに、在宅中も留守番電話を使うなどの対策を促し、参加者はメモを取りながら真剣に聞き入っていました。

講話に聞き入る参加者

12/17 地元の野菜で食育活動
とうや小学校北海道食育推進優良活動表彰受賞

とうや小学校（山下文人校長）が食育の推進に貢献している個人や団体に送られる第8回北海道食育推進優良活動表彰を受賞しました。「地域の野菜を子どもたちのために」と学校、栄養教諭、保護者、生産者など地域一体となって取り組む学校給食が高い評価を受けました。

とうやの給食を考える会代表の坂本瑠美さんは「洞爺の素晴らしい給食をたくさんの人に知ってほしいし、これからも残していきたい」と話しました。

表彰状を手にする山下校長（右）と坂本代表（左）

12/16 洞爺湖ロータリークラブ
町にティッシュケース寄贈

洞爺湖ロータリークラブ（新田裕基会長）が町にティッシュケース約100個を寄贈しました。

当日は新田会長と同クラブ小田原香織奉仕委員長が真屋町長を訪問。ティッシュケースは小田原委員長の手作りで、「湖と火山と歴史遺産の街　頑張ろう洞爺湖町」と手書きのメッセージが添えらていています。

小田原委員長は「福祉施設で役立ててほしい」と話し、真屋町長に手渡しました。

真屋町長（左）にティッシュケースを手渡す小田原奉仕委員長（中央）と新田会長（右）

12/24～29

かわいいバッグでエコロジー
エコバッグ作り

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館で冬休み特別企画「エコバッグ作り」が行われました。学校の冬休み期間中ということもあり、町内外から小学生や親子連れなど約60人が参加しました。

専用の型を使って動物や雪の結晶などの絵や自分の名前を描き、アクリル絵の具を塗って仕上げました。参加した子どもたちは、「かわいいバッグができた」と思い思いのバッグを完成させて満足していました。

エコバッグに絵を描く子どもたち

12/24

防犯への注意を喚起
歳末地域安全運動

ひったくりや空き巣などの住民への注意喚起を目的に洞爺湖町防犯協会が歳末地域安全運動を行いました。

洞爺支部では、会員10人が参加、洞爺水の駅やセイコーマート洞爺店などで実施。毛利納支部長のあいさつの後、各グループに分かれ、住民たちにティッシュやハンカチセットを配り、犯罪防止を呼びかけました。

これに先立って16日に虻田支部でもウロコとAマートとうや湖店で実施しました。

とうや水の駅で実施された安全運動

1/26・1/27

地元のホタテをPR
噴火湾胆振海区漁業振興推進協議会が無償提供

地元の特産品であるホタテのおいしさを児童・生徒に知ってもらおうと、ホタテを使った学校給食が、学校給食週間（1月24日～30日）に合わせて町内の全小中学校で振る舞われました。

洞爺地区では26日にホタテごはんが、虻田地区では27日にホタテシチューが提供されました。

子どもたちは、ホタテがふんだんに使われた給食をおいしそうに笑顔で食べていました。

ホタテシチューを食べる虻田小の子どもたち

1/20

大規模災害時の相互協力
北電・北電ネットワークグループと協定締結

町と北海道電力、北海道電力ネットワークの三者が大規模災害時の相互協力に関する協定を締結しました。停電の復旧支援、施設や資機材の提供、被害状況の情報共有や意見交換など4項目を盛り込みました。

協定書を交わした真屋町長は「重要なインフラとなる電力の確保のため体制を充実させることができました」、ほくでんネットワークの水野支店長は「今後も情報共有を進めていきたいです」と話しました。

協定を締結した真屋町長（左）と水野支店長（右）